



Cisco Prime Infrastructure の概要

ここでは、次の内容について説明します。

- [Prime Infrastructure の構成 \(1 ページ\)](#)
- [Prime Infrastructure を使用する前に完了しなければならないタスクのセットアップ \(2 ページ\)](#)
- [ログインおよびログアウト \(3 ページ\)](#)
- [パスワードの変更 \(4 ページ\)](#)
- [メイン ウィンドウ コントロールの使用 \(4 ページ\)](#)
- [デフォルトのホーム ページの変更 \(4 ページ\)](#)
- [ダッシュボードのセットアップと使用 \(5 ページ\)](#)
- [ダッシュボードを使用したネットワーク ヘルスのトラブルシューティング \(18 ページ\)](#)
- [別の仮想ドメインで作業する \(26 ページ\)](#)
- [ジョブ ダッシュボードを使用したジョブの管理 \(26 ページ\)](#)
- [Cisco Prime Infrastructure 機能の拡張 \(28 ページ\)](#)
- [最新のインベントリに存在をチェック マニュアル \(28 ページ\)](#)

Prime Infrastructure の構成

Prime Infrastructure の Web インターフェイスはライフサイクル ワークフローで構成され、次の表に示すようなハイレベルのタスク エリアがあります。このマニュアルは、同じ一般的なマニュアルの構成に従います。



注意

サードパーティ製のブラウザ拡張機能を有効にしないことを強くお勧めします。Internet Explorer では、[ツール (Tools)] > [インターネット (Internet)] オプションを選択して、[詳細設定 (Advanced)] タブで [サードパーティ製のブラウザ拡張を有効にする (Enable third-party browser extensions)] チェックボックスを選択解除することで、サードパーティ製のブラウザ拡張を無効にできます。

Prime Infrastructure を使用する前に完了しなければならないタスクのセットアップ

表 1: Prime Infrastructure のタスク領域

タスク エリア	説明	使用者
ダッシュボード	ダッシュボードは、デバイス、パフォーマンス情報、およびさまざまなインシデントのクイック ビューを提供します。	ネットワーク オペレータおよびネットワーク エンジニア
モニタ (Monitor)	日単位でネットワークをモニタし、ネットワークデバイスインベントリと設定管理に関連する他の毎日の操作または臨時の操作を実行します。[モニタ (Monitor)]タブには、毎日のモニタリング、トラブルシューティング、メンテナンス、および操作に必要なダッシュボードとツールが含まれています。	ネットワーク エンジニア、設計者、およびアーキテクト
設定 (Configuration)	設計機能またはデバイスパターン、あるいはテンプレート。[設計 (Design)]エリアでは、設定テンプレートなど、再利用可能な設計パターンを作成できます。事前定義されたテンプレートを使用することも、独自のテンプレートを作成することもできます。パターンとテンプレートはライフサイクルの展開段階で使用されます。また、プラグ アンドプレイ プロファイルとモビリティ サービスを設計することもできます。	ネットワーク エンジニア、設計者、およびアーキテクト
インベントリ	デバイスの追加、ディスカバリの実行、ソフトウェアイメージの管理、デバイスアーカイブの設定、デバイスでの設定変更の監査など、すべてのデバイス管理操作を実行します。	ネットワーク エンジニア、NOC オペレータ、サービス オペレータ
マップ	ネットワーク トポロジおよびワイヤレスマップを表示します。	ネットワーク エンジニア、NOC オペレータ、サービス オペレータ
サービス	モビリティ サービス、Application Visibility and Control サービス、および IWAN 機能にアクセスします。	ネットワーク エンジニア、NOC オペレータ、サービス オペレータ
レポート	レポートの作成、保存したレポートテンプレートの表示、スケジュール設定されたレポートの実行を行います。	ネットワーク エンジニア、NOC オペレータ、サービス オペレータ
管理 (Administration)	システムコンフィギュレーションの設定とデータ収集の設定を指定し、アクセスコントロールを管理します。ジョブの表示と承認、ヘルスルールの指定、およびライセンス管理を行うことができます。また、ソフトウェアアップデートの実行とハイアベイラビリティの設定を行うこともできます。	ネットワーク エンジニア

Prime Infrastructure を使用する前に完了しなければならないタスクのセットアップ

機能を使用するには、管理者が次のタスクを完了する必要があります。

表 2: セットアップ タスクと参照


Prime Infrastructure を使用する前に完了するタスク	詳細については、次を参照してください。
Prime Infrastructure サーバのセットアップと設定を行います。	『Prime Infrastructure Administrator Guide』の「Server Setup Tasks」
デバイスとネットワークの管理を簡素化するために、デバイスを追加してデバイスグループを作成します。	デバイスの追加と整理
ネットワークで使用されるインターフェイスとテクノロジーのモニタリングを有効にします。	デバイスおよびネットワークの健全性とパフォーマンスのモニタ
展開に合わせアラームとイベントの動作（アラームやイベントの更新頻度、電子メール、トラップレシーバなど）をカスタマイズします。	アラームとイベント管理の設定

ログインおよびログアウト

GUI にログインするには、Web ブラウザのアドレス フィールドに次のように入力します。
server-ip はサーバの IP アドレスです。

https://server-ip


ネットワーク構成によっては、初めてブラウザを Web サーバに接続するときに、サーバのセキュリティ証明書を信頼するようにクライアントブラウザを更新する必要があります。これにより、クライアントと Web サーバ間の接続のセキュリティが保証されます。

ログアウトするには、ウィンドウの右上にある  をクリックし、**LogOut** を選択します。

ユーザとそのユーザが実行できる操作については、次を参照してください。



- **Prime Infrastructure** で [CLI ユーザ インターフェイスを切り替える方法](#) : さまざまな CLI ユーザ アカウントを含む、でサポートされているすべてのユーザ クラスについて説明します。
- [ユーザ グループのタイプ](#) : Web GUI ユーザが毎日実行できる機能を制御できるユーザ グループ メカニズムについて説明します。ユーザ インターフェイスで表示できるものと操作できるものは、ユーザ アカウント権限によって制御されます。このトピックでは、デバイスのロールベース アクセス コントロール (RBAC) を管理する仮想ドメイン メカニズムについても説明します。

パスワードの変更


パスワードは、Prime Infrastructure ウィンドウの右上にある  をクリックし、[パスワードの変更 (Change Password)] を選択することによって、いつでも変更することができます。情報アイコンをクリックして、パスワードポリシーを確認します。


メインウィンドウコントロールの使用

タイトルバーの左上には、次のコントロールがあります。


	[メニュー (Menu)] ボタン: 左側のメインのナビゲーションメニューを切り替えます (左側のサイドバーメニューとも呼ばれます)
	[ホーム (Home)] ボタン: ホームページ (通常は [概要 (Overview)] ダッシュボード) に戻ります。

タイトルバーの右側には、使用しているユーザ名と仮想ドメインが表示されます。仮想ドメインは、デバイスの論理的なグループです。仮想ドメインは、ネットワークのデバイスや領域にアクセスする人物を制御するために使用されます。割り当てられている仮想ドメインを切り替えるには、[別の仮想ドメインで作業する \(26 ページ\)](#) を参照してください。

	Web GUI のグローバル設定ボタン: ログアウト、パスワードの変更、Cisco.com のアカウントプロフィールの表示、GUI 設定の調整、Cisco.com のサポート事例の確認、オンラインヘルプの起動
---	--


タイトルバーの右側の  をクリックすると、ウィンドウ設定メニューが開きます。

最後に、[アラームのまとめ (Alarm Summary)] には、ネットワーク内のアラーム数が視覚的に示されます。色は最も重大度の高いアラームを示します。


	[アラームのまとめ (Alarm Summary)]: 指定したカテゴリのアラーム数が視覚的に表示されます。この領域をクリックすると、[アラームのまとめ (Alarm Summary)] ポップアップウィンドウが開きます。
---	---

デフォルトのホームページの変更

次のタスクを実行したときに、どのページが表示されるようにするかを指定できます。

- Web GUI タイトルバーの左側にある  をクリックしたとき
- Prime Infrastructure Web GUI にログインするとき

この設定はユーザ単位で保存されます。この設定は、他のユーザに影響を与えることなく、いつでも変更できます。

ステップ1 希望のページが表示されている状態で、Prime Infrastructure Web GUI の右上にある  をクリックします。

ステップ2 [現在のページをホームとして設定 (Set Current Page as Home)] を選択します。

ダッシュボードのセットアップと使用

ダッシュボードには、ネットワークにおける最重要データの概要が表示されます。これらは、ステータス、アラート、モニタリング、パフォーマンス、レポートの情報を提供します。ユーザにとって重要な情報のみが表示されるように、これらのダッシュボードをカスタマイズできます。デフォルトのホームページとして [ネットワーク概要 (Network Summary)] ダッシュボードを設定することをお勧めします。そうすれば、ログイン後にこのダッシュボードが表示され、何かを実行する前に、ネットワーク全体の健全性をすばやく確認できます。デフォルトのホームページとしてダッシュボードを設定するには、[デフォルトのホームページの変更 \(4 ページ\)](#) を参照してください。

以下のダッシュボードを使用して、ネットワークをモニタしたり、管理したりします。

- [ネットワーク概要 (Network Summary)] ダッシュボード：ネットワーク全体の健全性を確認します。[ネットワーク概要ダッシュボードを使用したネットワーク全体の健全性の確認 \(8 ページ\)](#) を参照してください。
- [ワイヤレス (Wireless)] ダッシュボード：ワイヤレスセキュリティ、メッシュ、CleanAir、ContextAware ネットワーキングに関する詳細を含むワイヤレス情報を提供します。
- [パフォーマンス (Performance)] ダッシュボード：特定のデバイスやインターフェイスのパフォーマンスを確認します。[\[パフォーマンス \(Performance\)\] ダッシュボードを使用して、特定のデバイスまたはインターフェイスのパフォーマンスをチェックする \(11 ページ\)](#) を参照してください。
- [データセンター (Data Center)] ダッシュボード：データセンターに関する情報が表示され、コンピューティングおよびホストのリソースに関する個別のタブがあります。

管理者権限を持つユーザは、次のダッシュボードも使用できます。

- [ライセンス (Licensing)] ダッシュボード：『[Cisco Prime Infrastructure Administrator Guide](#)』の「[View the Licencing Dashboard](#)」セクションを参照してください。
- [ジョブ (Jobs)] ダッシュボード：[ジョブダッシュボードを使用したジョブの管理 \(26 ページ\)](#) を参照してください。

次の点に注意してください。

- ダッシュボード ウィンドウの各部分の説明およびダッシュボードフィルタの使用方法については、[ダッシュボードの使用法 \(6 ページ\)](#) を参照してください。

ダッシュボードの使用方法

次の図に、ダッシュボードウィンドウの主要な部分とそれらの調整に使用可能なコントロールを示します。

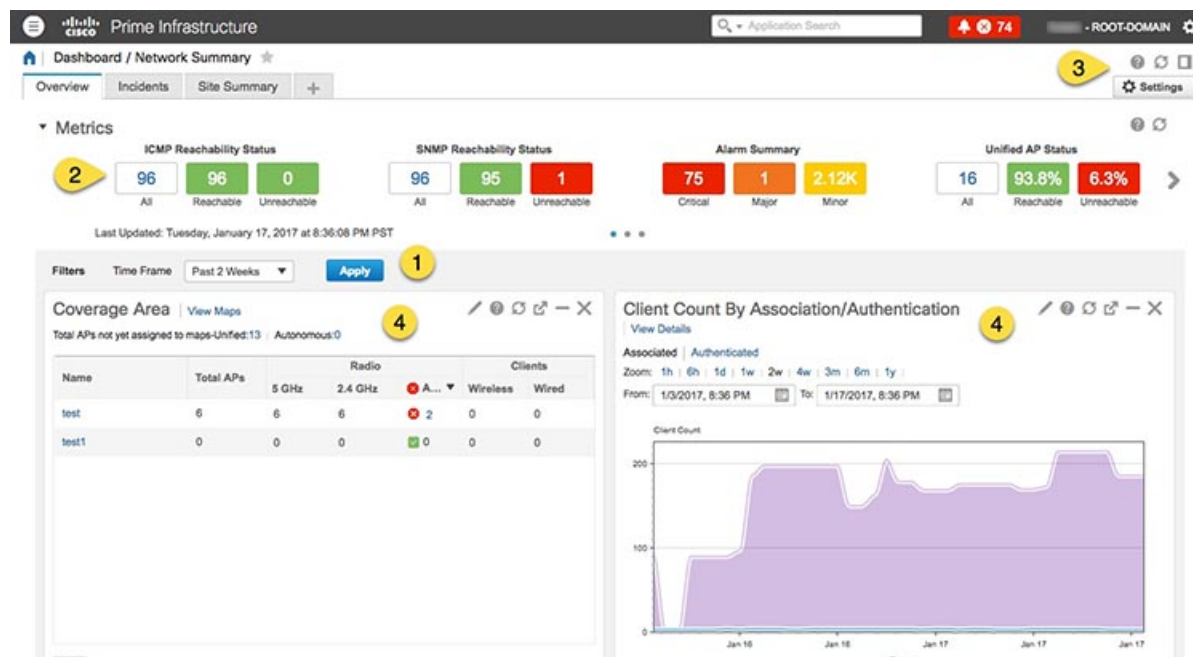
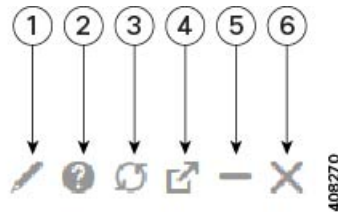


表 3: ダッシュボード要素

1	ダッシュボードフィルタ：選択に基づいてダッシュボード内のすべてのダッシュレットをフィルタ処理します。この例では、時間ベースのフィルタが使用されています。表示されるフィルタは、ダッシュボードタイプによって異なります。たとえば、パフォーマンスダッシュボードでは、特定のインターフェイス、デバイス、回線、または VC を選択する必要があります。
2	メトリックダッシュレット：アラームや使用可能なデバイスなどのクイックメトリックを提供します。
3	<p>ダッシュボードの設定とコントロール：</p> <ul style="list-style-type: none"> ダッシュボードアイコン：オンラインヘルプを起動したり、ダッシュボード全体を更新したり、[ドッキング (Dock)] ウィンドウを開いたりできます。 [ダッシュボード設定 (Dashboard Settings)] メニュー：ダッシュボードタブを追加または名前変更したり、新しいダッシュレット (標準とメトリックの両方) を追加したり、ダッシュボードのレイアウトを調整したり、すべてのダッシュボードをデフォルト設定にリセットしたり、ダッシュボードをクローニングしたり ([ネットワークサマリー (Network Summary)] ダッシュボードにのみ適用可能)、選択したダッシュレットからデータをエクスポートしたりできます。

4	標準ダッシュレット：ダッシュボードに関連する概要データを示します。
---	-----------------------------------

各ダッシュレットの右上に、そのダッシュレットが使用されたときにアクティブになるアイコンがあります。ダッシュレットタイプによって、使用可能なアイコンが決定されます。最も一般的なアイコンを次の図に示します。



1	ダッシュレットオプションを編集します。これには、ダッシュレットタイトルの編集、ダッシュレットの更新、またはダッシュレット更新間隔の変更が含まれます。（更新を無効にするには、[ダッシュレットの更新 (Refresh Dashlet)] をオフにします）。ダッシュレットに現在適用されているフィルタを表示するには、このツールアイコンの上にカーソルを移動します。
2	ダッシュレット ポップアップ ヘルプ ウィンドウ：ダッシュレットの図と説明、それを生成するために使用されたデータ ソース、およびダッシュレットのコンテンツに適用可能なフィルタを提供します。
3	ダッシュレットを更新します。
4	ダッシュレットを切り離し、新しいブラウザ ウィンドウで表示します。別のブラウザ ウィンドウでダッシュレットを編集する場合、変更はそのウィンドウにのみ適用され、保存されることはありません。
5	ダッシュレットを最小化して、タイトルのみが表示されるようにします。ダッシュレットが最小化されると、最大化 (+) アイコンがこのツールアイコンの代わりに表示されます。
[6]	ダッシュボードからダッシュレットを削除します。

ダッシュボードの追加情報については、次のトピックを参照してください。

- [ダッシュボードのタイプ \(8 ページ\)](#)
- [ダッシュボードへのダッシュレットの追加 \(14 ページ\)](#)
- [新しいダッシュボードの追加 \(17 ページ\)](#)

[ドック (Dock)] ウィンドウのカスタマイズ

[ドック (Dock)] ウィンドウを使用すると、頻繁に使用する Web GUI ページやポップアップ ウィンドウ（特定のデバイスの 360 度ビューなど）に素早く移動できます。このウィンドウでは、最近アクセスした 15 のページへのリンクと Prime Infrastructure トレーニング資料へのリ

リンクにもアクセスできます。このウィンドウを開くには、（ページの右上の領域にある）[ドック（Dock）]アイコンをクリックします。

[ドック（Dock）]ウィンドウに表示されるリンクを更新するには、次の手順に従います。

ステップ 1 Web GUI ページのリンクを [お気に入り（Favorites）] タブ ([ドック（Dock）]アイコン>>[アクセスしたリンク（Links Visited）]>[お気に入り（Favorites）]) に追加する場合：

- a) 追加する Web GUI ページを開きます。
- b) ページの左上の領域にある星の形をした ([お気に入り（Favorites）]) アイコンをクリックします。

ステップ 2 ポップアップ ウィンドウのリンクを [ドッキング アイテム（Docked Items）] 領域 ([ドック（Dock）]アイコン>[ドッキング アイテム（Docked Items）]) に追加する場合：

- a) 追加するポップアップ ウィンドウを開き、その 360 度ビューを開きます。
- b) ポップアップ ウィンドウの右上隅にある [ドックに追加（Add to Dock）] アイコンをクリックします。

ダッシュボードのタイプ

以下のトピックでは、ネットワークをモニタするために使用できるダッシュボードについて説明します。



- (注) Prime Infrastructure は、データ ソースではなく、サイトに割り当てられたエンドポイントに基づいて、仮想ドメインのモニタリングデータをフィルタリングします。したがって、ダッシュボードには、ユーザに割り当てられた仮想ドメインに関係なく、すべての仮想ドメインの情報が表示されます。

ネットワーク概要ダッシュボードを使用したネットワーク全体の健全性の確認

ネットワーク概要ダッシュボードには、最も重要なネットワークの問題のアラートが示されません。ネットワーク内のすべてのデバイスとインターフェイス（コントローラや AP などのワイヤレス デバイスを含む）に関するアラーム、ステータス、および使用状況に関する情報が表示されます。このダッシュボードには、小さなネットワーク トポロジ ダッシュレットも表示できます。

ダッシュボード上部のメトリックス ダッシュレットに表示される情報のタイプを理解するには、メトリック ダッシュレットにマウスカーソルを移動し、ポップアップヘルプボタン ([?]) が表示されたら、このボタンをクリックしてダッシュレットヘルプを開きます。このページのその他のダッシュレットの説明については、各ダッシュレットの右上隅にあるダッシュレット コントロールに表示されるポップアップヘルプ ボタンをクリックしてください。

ネットワーク概要ダッシュボードを開いてカスタマイズするには、次の手順に従います。

ステップ 1 [ダッシュボード (Dashboard)] > [ネットワーク概要 (Network Summary)] を選択し、次のいずれかをクリックします。

- [概要 (Overview)] タブ：すべてのデバイスを確認します。
- [インシデント (Incidents)] タブ：syslog を含むアラームとイベントを中心に確認します。
- [クライアントの概要 (Client Summary)] タブ：[クライアントの分散 (Client Distribution)]、[クライアントカウント (Client Count)]、および [クライアントトラフィック (Client Traffic)] を確認します。

(注) デフォルトでは、クライアント概要ダッシュボードにアクセスできるのは ROOT と SUPERUSER だけです。Admin ユーザおよび Config ユーザがこのダッシュボードにアクセスする必要がある場合は、Admin/Config ユーザの作成時に NBI READ アクセス権限を付与する必要があります。

- [サイトの概要 (Site Summary)] タブ：特定サイトのすべてのデバイスを確認します。
- [ネットワークヘルス (Network Health)] タブ：一連のヘルスルールに従ってネットワークの健全性を確認します。

ステップ 2 必要に応じてダッシュボードを調整します。ダッシュレットはダッシュボード上のさまざまな位置にドラッグできます。また、[設定 (Settings)] メニューを使用して、新しいダッシュレットの追加やダッシュボードのスタイルの変更などを行うことができます。ダッシュボードにダッシュレットを追加するには、[事前定義のダッシュレットをダッシュボードに追加する \(14 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 3 フィルタの [タイムフレーム (Time Frame)] ドロップダウンリストから表示するタイムフレームを選択し、[適用 (Apply)] をクリックします。選択されたタイムフレームは、すべてのダッシュレットで更新されます。

(注) 特定のダッシュレットのタイムフレームを変更するには、[ズーム (Zoom)] オプションで必要なタイムフレームをクリックします。グローバルタイムフレームにリセットするには、[設定 (Settings)] > [ダッシュボードの管理 (Manage Dashboards)] > [ダッシュレットのタイムフィルタのリセット (Reset Dashlet Time Filters)] を選択します。このリセットオプションは、[ネットワーク概要ダッシュボード (Network Summary Dashboard)] ページで利用可能なすべてのタブに適用されます。

概要ダッシュボードを使用したすべてのデバイスまたはすべてのインターフェイスのヘルスの確認

概要ダッシュボードは、ネットワークデバイス、インターフェイス、クライアント、およびアプリケーションのすべてのヘルスについて、要約および集約したデータを、それらの可用性、ステータス、使用率、およびアラームと、それらに影響を及ぼすイベントを含めて提供することで、ネットワークのヘルスを維持するのに役立ちます。

ダッシュボード上部のメトリックス ダッシュレットに表示される情報のタイプを理解するには、メトリック ダッシュレットにマウスカーソルを移動し、ポップアップヘルプボタン ([?]) が表示されたら、このボタンをクリックしてダッシュレットヘルプを開きます。このページのその他のダッシュレットの説明については、各ダッシュレットの右上隅にあるダッシュレット コントロールに表示されるポップアップ ヘルプ ボタンをクリックしてください。

概要ダッシュボードを開いてカスタマイズするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [ダッシュボード (Dashboard)] > [概要 (Summary)] を選択し、次のいずれかをクリックします。

- デバイスが到達可能なカバレッジ領域やCPUおよびメモリの上位ユーザを含め、すべてのデバイスおよびインターフェイスのヘルスを確認するには、[一般 (General)] タブをクリックします。
- ほとんどのアラームの発生元のサイト、デバイス到達可能性、アラームのタイプ、および syslog の詳細など、アラームとイベントに注目する場合は、[インシデント (Incidents)] タブをクリックします。
- ネットワーククライアントのヘルスに注目する場合は、[クライアント (Client)] タブをクリックします。このタブは、トラブルシューティングツール、有線およびワイヤレスクライアントの分布グラフおよび速度グラフ、クライアント ポスチャなど、クライアント指向のさまざまなダッシュレットをホストしています。
- デバイスの可用性、CPUおよびメモリの使用状況、および温度の問題を確認するには、[ネットワーク デバイス (Network Devices)] タブをクリックします。
- インターフェイスの可用性、ステータス、CPU およびメモリの使用状況、ならびにエラーや破棄を最も多く発生させているインターフェイスを確認するには、[ネットワーク インターフェイス (Network Interfaces)] タブをクリックします。
- 識別されたネットワーク サービスとアプリケーション、サーバ、ならびにそれらをサポートする NetFlow 監視リソース、ならびにそれらを消費するクライアントに関して確認するには、[Service Assurance (サービス保証)] タブをクリックします。

ステップ 2 必要に応じて、ダッシュボードを調整します。ダッシュレットはダッシュボードのさまざまな場所にドラッグすることができます。または、[設定 (Settings)] メニューを使用して、新しいダッシュレットを追加したり、ダッシュボードスタイルを変更したりできます。ダッシュレットを追加するには、[事前定義のダッシュレットをダッシュボードに追加する \(14 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 3 フィルタの [タイム フレーム (Time Frame)] ドロップダウンリストから表示するタイム フレームを選択し、[適用 (Apply)] をクリックします。

ワイヤレス ダッシュボードを使用したワイヤレス ネットワークのヘルスの確認

ワイヤレス ダッシュボードは、ネットワーク セキュリティ ステータスおよび攻撃、メッシュ ネットワークの効率性、電波品質、干渉などに関する集約されたデータを提供することで、ワイヤレス ネットワークのヘルスを維持するのに役立ちます。

ダッシュボード上部のメトリックス ダッシュレットに表示される情報のタイプを理解するには、メトリック ダッシュレットにマウスカーソルを移動し、ポップアップヘルプボタン ([?])

)が表示されたら、このボタンをクリックしてダッシュレットヘルプを開きます。このページのその他のダッシュレットの説明については、各ダッシュレットの右上隅にあるダッシュレットコントロールに表示されるポップアップヘルプボタンをクリックしてください。

ワイヤレスダッシュボードを開いてカスタマイズするには、次の手順を実行します。

ステップ1 [ダッシュボード (Dashboard)] > [ワイヤレス (Wireless)] を選択し、次のいずれかをクリックします。

- 上位のセキュリティ問題、すべてのタイプにおいて検出された不正、CleanAir セキュリティ、不正の抑制、およびシスコの適応型ワイヤレス侵入防御 (wIPS) データを確認するには、[セキュリティ (Security)] タブをクリックします。
- メッシュネットワークのアラーム、SNR が最も悪いリンク、ノードホップおよびパケットエラーの数に注目するには、[メッシュ (Mesh)] タブをクリックします。
- インターフェイスの総数および最も劣悪なインターフェイス、CAS 干渉通知、および一般的な電波品質など、非 802.11 インターフェイスソースに注目する場合は、[CleanAir] タブをクリックします。
- MSE 追跡カウント、ロケーション支援クライアントトラブルシューティング、および検出された不正要素など、モビリティサービスエンジンでサポートされている Cisco Context-Aware Mobility のデータに注目するには、[ContextAware] タブをクリックします。

ステップ2 必要に応じて、ダッシュボードを調整します。ダッシュレットはダッシュボードのさまざまな場所にドラッグすることができます。または、[設定 (Settings)] メニューを使用して、新しいダッシュレットを追加したり、ダッシュボードスタイルを変更したりできます。ダッシュレットを追加するには、[事前定義のダッシュレットをダッシュボードに追加する \(14 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ3 フィルタの [タイム フレーム (Time Frame)] ドロップダウンリストから表示するタイムフレームを選択し、[適用 (Apply)] をクリックします。

[パフォーマンス (Performance)] ダッシュボードを使用して、特定のデバイスまたはインターフェイスのパフォーマンスをチェックする

[パフォーマンス (Performance)] ダッシュボードに自分が興味のある情報が表示されない場合は、独自のカスタマイズされたダッシュレットを作成できます。詳細については、[デバイストレンド \(Device Trends\) \] ダッシュボードへのカスタマイズ済みダッシュレットの追加 \(15 ページ\)](#) を参照してください。

[パフォーマンス (Performance)] ダッシュボードを使用して、特定のデバイスまたはインターフェイスのパフォーマンスをチェックする

表 4: パフォーマンス ダッシュボード

ダッシュボード タブ	内容 :
デバイス	<ul style="list-style-type: none"> • 指定されたタイムラインのデバイス可用性 • デバイス CPU ごとの CPU 使用率 • メモリ使用率 • ポート カウントと動作上アップまたはダウンになっているポート • デバイスのアラームとイベント • デバイスの温度
インターフェイス (Interface)	<ul style="list-style-type: none"> • インターフェイスのプロパティ (IfType や IfIndex など) • 指定されたタイムラインのインターフェイス可用性 • インターフェイスの CPU 使用率とメモリ使用率 • Tx 使用率と Rx 使用率、およびパケットのエラーと破棄 • QoS クラス マップ統計情報
サイト、アクセ ス ポイント、 アプリケーション など	<ul style="list-style-type: none"> • クライアント トラフィック、最もアラーム数の多いデバイス、上位 N 個のアプリケーション、およびデバイス到達可能性ステータス • 特定のアクセス ポイントの場合 : <ul style="list-style-type: none"> • アクセス ポイントの詳細 • 上位のクライアントとアプリケーション • チャンネル使用率 • クライアント数 • 特定のアプリケーションの場合 : <ul style="list-style-type: none"> • 上位のクライアントとサーバ • アプリケーション トラフィック分析グラフ • アプリケーション サーバのパフォーマンス • 時系列の上位インターフェイス

[パフォーマンス (Performance)] ダッシュボードを開いてカスタマイズするには、次の手順を使用します。

ステップ 1 [ダッシュボード (Dashboards)] > [パフォーマンス (Performance)] を選択してから、次のいずれかを実行します。

- 特定のデバイスをチェックするには、[デバイス (Devices)] タブをクリックしてから、フィルタの [デバイス (Device)] ドロップダウンリストからデバイスを選択します。
- 特定のインターフェイスをチェックするには、[インターフェイス (Interfaces)] タブをクリックしてから、フィルタの [インターフェイス (Interface)] ドロップダウンリストをクリックし、チェックするインターフェイスに移動します。

ステップ 2 必要に応じて、ダッシュボードを調整します。ダッシュレットはダッシュボードのさまざまな場所にドラッグすることができます。または、[設定 (Settings)] メニューを使用して、新しいダッシュレットを追加したり、ダッシュボードスタイルを変更したりできます。ダッシュレットを追加するには、[ダッシュボードへのダッシュレットの追加 \(14 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 3 フィルタの [タイム フレーム (Time Frame)] ドロップダウン リストから表示するタイム フレームを選択してから、[実行 (Go)] をクリックします。

データセンター ダッシュボードを使用したコンピューティング リソースのヘルスの確認

データセンターダッシュボードを使用して、データセンターの仮想マシンおよびホストに関する集約された詳細な情報とそれらの使用率に取得します。

データセンター ダッシュボードを開いてカスタマイズするには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. [ダッシュボード (Dashboards)] > [データセンター (Data Center)] を選択してから、次のいずれかを実行します。
2. 必要に応じて、ダッシュボードを調整します。ダッシュレットはダッシュボードのさまざまな場所にドラッグすることができます。または、[設定 (Settings)] メニューを使用して、新しいダッシュレットを追加したり、ダッシュボードスタイルを変更したりできます。ダッシュレットを追加するには、[ダッシュボードへのダッシュレットの追加 \(14 ページ\)](#) を参照してください。

手順の詳細

ステップ 1 [ダッシュボード (Dashboards)] > [データセンター (Data Center)] を選択してから、次のいずれかを実行します。

- 仮想マシンとそれらのリソースの使用状況については、[コンピューティング (Compute)] タブを選択し、[フィルタ (Filters)] で [データセンター (Data Center)] ドロップダウン リストからデータセンターを選択して [実行 (Go)] をクリックします。

ホスト CPU の使用状況のパフォーマンスの場合 : [ホスト (Host)] タブをクリックし、[フィルタ (Filter)] で [ホスト (Host)] ドロップダウン リストからホストを選択して [実行 (Go)] をクリックします。

ステップ 2 必要に応じて、ダッシュボードを調整します。ダッシュレットはダッシュボードのさまざまな場所にドラッグすることができます。または、[設定 (Settings)] メニューを使用して、新しいダッシュレットを追加したり、ダッシュボードスタイルを変更したりできます。ダッシュレットを追加するには、[ダッシュボードへのダッシュレットの追加 \(14 ページ\)](#) を参照してください。

ダッシュボードへのダッシュレットの追加

- Prime Infrastructure で提供される事前パッケージダッシュレット：ダッシュレットの一部はデフォルトでダッシュボードに表示されます。他のダッシュレットは、[設定 (Settings)] メニューにリストされ、必要に応じて追加できます。これらのダッシュレットにより、モニタする可能性の高い情報が提供されます（たとえば、デバイスの CPU 使用率、インターフェイスのエラーと破棄、トラフィック統計情報）。[事前定義のダッシュレットをダッシュボードに追加する \(14 ページ\)](#) を参照してください。
- デバイスのパフォーマンスをモニタするために作成するカスタムダッシュレット：これらのダッシュレットタイプは、[デバイスの傾向 (Device Trends)] ダッシュボードにのみ追加できます。「[\[デバイストレンド \(Device Trends\)\] ダッシュボードへのカスタマイズ済みダッシュレットの追加](#)」を参照してください。

事前定義のダッシュレットをダッシュボードに追加する

Prime Infrastructure は、一般的に必要なネットワーク データを提供する、事前定義のダッシュレットのセットを提供します。デフォルトで、これらのダッシュレットのサブセットがすでにダッシュボードに含まれているため、すぐに使い始めることができます。これらの事前定義のダッシュレットとは別のダッシュレットをダッシュボードに追加するには、次の手順を実行します。



(注) ダッシュレットを編集または削除するには、その右上にある該当するアイコンをクリックします（「[ダッシュボードの使用方法](#)」を参照）。

ステップ 1 サイドバーメニューで、[ダッシュボード (Dashboard)] を選択してから、ダッシュレットを追加するダッシュボードを選択します。

たとえば、[デバイス メモリ使用率 (Device Memory Utilization)] ダッシュレットを [デバイストレンド (Device Trends)] ダッシュボードに追加するには、[ダッシュボード (Dashboard)] > [デバイストレンド (Device Trends)] > [デバイス (Device)] を選択します。

ステップ 2 追加するダッシュレットを特定して追加します。

- a) ダッシュボードの右上で、[設定 (Settings)] をクリックしてから、[ダッシュレットを追加 (Add Dashlets)] を選択します。Prime Infrastructure が、そのダッシュボードに追加可能なダッシュレットを一覧表示します。

- b) 特定のダッシュレットの概要を示すポップアップ ウィンドウを開くには、そのダッシュレットの名前の左側にカーソルを移動します。次の図に示すように、ポップアップ ウィンドウには、ダッシュレットが提供するデータのソースと、ダッシュレットに適用可能なフィルタも表示されます。

The screenshot shows a web interface for 'Top N CPU Utilization'. A table lists devices with their IP addresses, maximum utilization, and current utilization. A pop-up window is overlaid on the right side of the dashboard, providing a description of the dashlet, its data sources (SNMP polling-Device Health), and applicable filters. The 'Add' button at the bottom right of the pop-up is highlighted with a red box.

Device	Device IP	Maximum Utilization	Current Utilization
C3500E-cisco.com	172.20.118.231	92%	8%
ASR_Sanity_Reg-cisco.com	10.104.240.153	58%	13%
SAM-5-SJ-CE-cisco.com	172.23.208.131	22%	22%
ASR_Sanity_Reg-cisco.com	10.104.240.153	22%	22%
SAM-5-SJ-CE-cisco.com	172.23.208.131	13%	9%

- c) [追加 (Add)] をクリックして、選択したダッシュレットをダッシュボードに追加します。

ステップ3 ダッシュレットにデータが入力されていることを確認します。

そうでない場合は、必要なモニタリングポリシーが有効になっているかどうかをチェックします (デバイスヘルスモニタリングポリシーだけがデフォルトで有効になります。これは、デバイス可用性、CPUとメモリプールの使用率、および環境温度をチェックします)。

- a) ダッシュレットの右上で、その[?] ([ヘルプ (Help)]) アイコンをクリックして、ダッシュレットのポップアップウィンドウを開きます。
- b) [データソース (Data Sources)] 領域に表示された情報をチェックします。モニタリングポリシーが表示された場合は、そのポリシーがアクティブになっているかどうかをチェックします。 [Prime Infrastructureによるモニタリング対象のチェック](#) を参照してください。

[デバイストレンド (DeviceTrends)]ダッシュボードへのカスタマイズ済みダッシュレットの追加

[デバイストレンド (Device Trends)]ダッシュボード内に、必要なデバイスパフォーマンス情報を提供するダッシュレットがない場合、カスタマイズしたテンプレートを使用するダッシュレットを追加して、デバイスに対してSNMP MIB属性をポーリングすることができます。このようなダッシュレットをダッシュボードに追加するには、次の手順に従います。

始める前に

使用可能なモニタリングポリシーを調べて、必要な情報を収集するポリシーを判断します。ダッシュレットの作成時にポリシーを指定する必要があります。ニーズを満たすポリシーがない場合は、新しいパラメータをポーリングするポリシーを作成できます。 [サポートされないパラメータとサードパーティデバイスを対象としたモニタリングポリシーの作成](#) を参照してください。

- ステップ 1** [ダッシュボード (Dashboard)] > [デバイストレンド (Device Trends)] > [デバイス (Device)] の順に選択します。
- ステップ 2** ダッシュボードの右上隅にある [設定 (Settings)] をクリックし、[ダッシュレットの追加 (Add Dashlets)] を選択します。
- ステップ 3** [デバイスダッシュレット (Device Dashlets)] リストを展開します。
- ステップ 4** [汎用ダッシュレット (Generic Dashlet)] を見つけて、[追加 (Add)] をクリックします。

Prime Infrastructure により、空白の汎用ダッシュレットが [デバイストレンド (Device Trends)] ダッシュボードに追加されます。

- ステップ 5** 必要に応じて新しいダッシュレットを設定します。
少なくとも、次の設定を行う必要があります。

- [ダッシュレットタイトル (Dashlet Title)] フィールドに、わかりやすいタイトルを入力します。
- ダッシュボード内のすべてのダッシュレットに時間フィルタを適用しない場合は、[ダッシュボードの時間フィルタをオーバーライドする (Override Dashboard Time Filter)] チェックボックスをオンにします。
- [タイプ (Type)] ドロップダウンリストで、ダッシュレットのデータを表または線グラフのどちらで表示するかを選択します。(どちらを選択するかに関わらず、Prime Infrastructure では、ダッシュレットの下部に、表示形式を変更するためのトグルが表示されます)。
- [ポリシー名 (Policy Name)] ドロップダウンリストから、このダッシュレットのデータを収集するモニタリングポリシーを選択します。

- ステップ 6** [保存して閉じる (Save and Close)] をクリックします。

新しいダッシュボードの追加

新しいダッシュボードを作成するには、次の手順を実行します。新しいダッシュボードは、[ダッシュボードのタイプ \(8 ページ\)](#) にリストされているダッシュボードの 1 つに、新しいタブとして表示されます。

ステップ 1 関連する既存のダッシュボードを開きます。

たとえば、[パフォーマンス (Performance)]ダッシュボードに新しいタブを作成するには、[ダッシュボード (Dashboard)]> [パフォーマンス (Performance)]にあるいずれかのタブをクリックします。

ステップ 2 [+] ([新しいダッシュボードの追加 (Add New Dashboard)]) タブをクリックします。

[設定 (Settings)]メニューが開きます。

ステップ 3 新しいダッシュボードの名前を入力し、[適用 (Apply)]をクリックします。

ステップ 4 新しいダッシュボードタブをクリックし、[事前定義のダッシュレットをダッシュボードに追加する \(14 ページ\)](#) の説明に従ってダッシュレットを追加します。

ダッシュレット データの CSV または PDF ファイルへのエクスポート

パフォーマンスダッシュボード内のさまざまなコンポーネントのダッシュレットデータを CSV または PDF ファイルにエクスポートできます。ダッシュレット データをエクスポートするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [ダッシュボード (Dashboards)]> [パフォーマンス (Performance)]を選択します。

ステップ 2 パフォーマンス ダッシュボードのダッシュレットを選択し、利用可能なダッシュレットを表示します。

ステップ 3 ダッシュレットデータをエクスポートするには、右上隅の[すべてをエクスポート (Export All)]をクリックします。[エクスポート (Export)]ダイアログ ボックスには、ファイル形式およびダッシュレットが表示されます。

(注) ダッシュレットが空の場合、[エクスポートできるコンテンツがありません (No exportable Content)]というポップアップ メッセージが表示されます。

ステップ 4 エクスポートするファイル形式 (CSV または PDF) を選択します。

(注) PDF 形式を選択する場合は、テーブル、グラフ、またはその両方を選択できます。

ステップ 5 すべてのダッシュレットまたは必要なダッシュレットを選択し、[エクスポート (Export)]をクリックします。

(注) 次のダッシュレットでは、[すべてをエクスポート (Export All)] 機能はサポートされていません。

- デバイスの到達可能性ステータス
- トップ N のアラーム タイプ (Top N Alarm Types)
- アラーム数トップ N のデバイス (Top N Devices with Most Alarms)
- トップ N のイベント (Top N Events)
- トップ N の Syslog 送信者 (Top N Syslog Sender)
- デバイス ポートの概要
- インターフェイスの詳細 (Interface Details)

ダッシュボードを使用したネットワークヘルスのトラブルシューティング

Prime Infrastructure で [ダッシュボード (Dashboard)] > [ネットワークサマリー (Network Summary)] > [ネットワークヘルス (Network Health)] を選択すると、ネットワークおよびサイトのヘルスを簡単に確認できます。ロケーショングループを作成して、このロケーションにデバイスを追加する必要があります。Prime Infrastructure にすべてのサイトの全体的なヘルスを示すマップが表示されます。[ネットワークヘルス (Network Health)] ページでは、有線と無線のデバイス間で表示を切り替えることができます。デフォルトでは、ロケーショングループごとにロケーションと最大 500 個の AP がすべて表示されます。[有線 (Wired)] ビューを選択した場合、[ネットワークヘルス (Network Health)] ページには、**WAN インターフェイスの使用率の詳細**と、すべてのロケーションの有線デバイスの全体的なヘルスステータスを示すマップが表示されます。[ワイヤレス (Wireless)] ビューを選択した場合、[ネットワークヘルス (Network Health)] ページには、**ワイヤレスクライアント数の詳細**と、すべてのサイトのワイヤレスデバイスの全体的なヘルスステータスを示すマップが表示されます。[ワイヤレス (Wireless)] ビューで、[エグゼクティブビュー (Executive View)] 展開アイコンをクリックして、クライアント、アクセスポイント、環境 (Clean Air)、およびアプリケーションのダッシュボードのいずれかを選択します。[ネットワークヘルス (Network Health)] ページに、選択したダッシュボードに対応するダッシュレットが表示されます。設定アイコンをクリックすると、ダッシュレットをさらに追加できます。ダッシュボードをクロス起動するには、[その他 (more)] をクリックします。

関連トピック

- [ヘルス ルールの定義 \(19 ページ\)](#)
- [ネットワークヘルス マップ機能 \(20 ページ\)](#)
- [ネットワークヘルスの概要 \(21 ページ\)](#)
- [QoS およびインターフェイスの設定の定義 \(19 ページ\)](#)

[QoS メトリック](#) (23 ページ)

[トラフィック カンバセーション](#) (24 ページ)

[ロケーション グループの作成](#)

ヘルス ルールの定義

サイトのルールおよびしきい値を指定できます。指定したルールに応じて、[ダッシュボード (Dashboard)]>[ネットワークの概要 (Network Summary)]>[ネットワークヘルス (Network Health)] に表示される通知が決定されます。

ステップ 1 [サービス (Services)]>[アプリケーションの可視性と制御 (Application Visibility & Control)]>[ヘルス ルール (Health Rule)] の順に選択します。ヘルス ルールを指定できる 3 つのタブがあります。

- [サービスヘルス (Service Health)] : ジッター、MOS スコア、ネットワーク時間、パケット損失、トラフィック レートなど、サービスのヘルス ルールを定義します。
- [インフラストラクチャヘルス (Infrastructure Health)] : CPU 使用率、メモリ ロス使用率、環境温度など、有線デバイスのヘルス ルールを定義します。
- [ワイヤレスヘルス (Wireless Health)] : クライアントカバレッジ、クライアントオンボーディング、クライアント数、CPU 使用率、メモリ使用率など、ワイヤレス デバイスのヘルス ルールを定義します。

ステップ 2 新しいヘルス ルールを追加するには、[+] アイコンをクリックし、ロケーション、メトリック、およびしきい値を指定します。新しいインフラストラクチャヘルスおよびワイヤレスヘルスルールのみを追加できます。

ステップ 3 既存のヘルスルールを編集するには、変更するヘルスルールを選択し、[編集 (Edit)] をクリックします。

ステップ 4 ヘルス ルールの詳細を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。

入力した値は、ヘルス ルールが適用されるロケーショングループ内にあるすべてのデバイスおよびインターフェイスに適用されます。

関連トピック

[ネットワークヘルスマップ機能](#) (20 ページ)

[ネットワークヘルスの概要](#) (21 ページ)

[ロケーショングループの作成](#)

QoS およびインターフェイスの設定の定義

ヘルス ページでは、[ネットワークヘルス (Network Health)] ページでのヘルス スコアの計算から QoS、管理上のダウンインターフェイス、CPU、およびメモリ インスタンスを除外できます。

ステップ 1 [サービス (Services)] > [アプリケーションの可視性と制御 (Application Visibility & Control)] > [ヘルスルール (Health Rule)] の順に選択します。

または、[ネットワークヘルス (Network Health)] ページで [ヘルスルールの起動 (Launch Health Rules)] リンクをクリックします。

ステップ 2 [インフラストラクチャヘルス (Infrastructure Health)] タブをクリックします。

ステップ 3 [詳細設定 (Advanced Settings)] ボタンをクリックします。[QoS/設定 (QoS/Settings)] タブおよび [CPU/メモリインスタンス (CPU/Memory Instance)] タブで、ヘルスコアの計算から除外するチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、[Scavengerの除外 (Exclude Scavenger)] チェックボックスおよび [管理上のダウンインターフェイスの除外 (Exclude Admin Down Interface)] チェックボックスがオンになっており、ヘルスコアの計算で考慮されなくなっています。これらを含める場合はオフにします。

ステップ 4 [保存して閉じる (Save and Close)] をクリックします。変更は、次のジョブ実行時に適用されます。

ネットワークヘルスマップ機能

[ダッシュボード (Dashboard)] > [ネットワークサマリー (Network Summary)] > [ネットワークヘルス (Network Health)] を選択すると、以前に追加した地理的属性を持つすべてのロケーショングループがマップに表示されます。デフォルトでは、ロケーショングループごとに最大 500 個の AP が表示されます。

ロケーショングループは、ロケーション全体のヘルスに応じて色分けされます。

- 赤：ロケーションに重大な問題があることを示しています。
- 黄色：ロケーションに警告があることを示しています。
- 緑：エラーおよび警告がないことを示しています。
- 灰色：ロケーションにデバイスまたはデータがないことを示しています。

正常性を示す色に加えて、アイコンは次のようになります。

- 実線：親サイトを示します。つまり、このサイトに関連付けられた子ロケーションがあります。
- 破線：このロケーションに関連付けられた子がないことを示します。

マップの任意のロケーション上にマウスを移動すると、このロケーションのサイトとエラーおよび警告をデバイスタイプ別に示すポップアップウィンドウが表示されます。

サイト名をクリックすると、サイトの拡大マップが表示されます。

関連トピック

- [ヘルスルールの定義](#) (19 ページ)
- [ネットワークヘルス表示オプション](#) (21 ページ)
- [ネットワークヘルスの概要](#) (21 ページ)
- [ロケーショングループの作成](#)

ネットワークヘルス表示オプション

[ダッシュボード (Dashboard)] > [ネットワークサマリー (Network Summary)] > [ネットワークヘルス (Network Health)] を選択すると、次の図に示すように、ページの右側に表示オプションが表示されます。

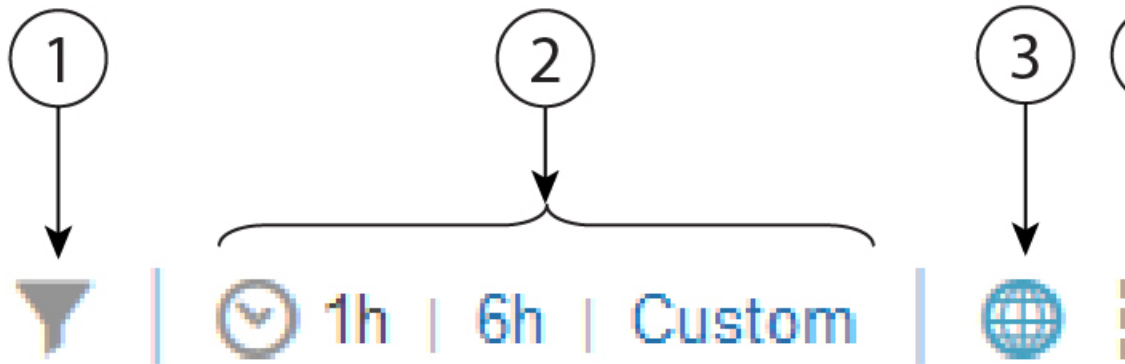


表 5: ネットワークヘルスの表示

1	フィルタオプション。選択したオプションによって、マップおよび[ヘルスの概要 (Health Summary)] ペインに表示される内容が変わります。すべてのフィルタを削除するには、[クリア (Clear)] > [選択項目 (Selection)] をクリックします。
2	タイムフレーム。デフォルトでは、過去6時間の情報が[サイトの可視性 (Site Visibility)] マップおよび[ヘルスの概要 (Health Summary)] ペインに表示されます。
3	左側のペインにマップが表示されます。
4	[ヘルスインデックス (Health Index)] ビューにネットワークヘルスの概要が表示されます。
5	表形式でネットワークヘルスの概要が表示されます。
6	右側の [ヘルスの概要 (Health Summary)] ペインの表示と非表示を切り替えます。

関連トピック

- [ヘルスルールの定義 \(19 ページ\)](#)
- [ネットワークヘルスマップ機能 \(20 ページ\)](#)
- [ネットワークヘルスの概要 \(21 ページ\)](#)
- [ロケーショングループの作成](#)

ネットワークヘルスの概要

[ヘルスの概要 (Health Summary)] ペインには、すべてのロケーション上のすべてのデバイスのエラーおよびしきい値違反が表示されます。Prime Infrastructure は、デバイスやサービスの

ヘルスデータを、15分ごとにサイトの概要情報として集約します。[有線 (Wired)] タブをクリックすると、ルータ、スイッチ、およびサービスヘルスの詳細のヘルスの概要が表示されます。[有線 (Wired)] の [ヘルスの概要 (Health Summary)] ペインに表示されたサイトまたはデバイスをクリックすると、詳細が表示されます。

[ルータ (Router)] : CPU、メモリ、温度などのサイト/デバイスワイズルータステータスが表示されます。

[スイッチ (Switch)] : CPU、メモリ、温度などのサイト/デバイスワイズスイッチステータスが表示されます。

[サービスヘルス (Service Health)] : サービスヘルスに関連するエラーまたは警告が発生する領域が表示されます。

[エグゼクティブ表示 (Executive View)]

- [ネットワークデバイス (Network Devices)] : 上位 N の CPU 使用率、上位 N のメモリ使用率などのネットワークデバイスに関連するダッシュレットが表示されます。
- [ネットワークインターフェイス (Network Interfaces)] : 上位 N の インターフェイス使用率 Tx、上位 N の インターフェイス使用率 Rx などのネットワークインターフェイスに関連するダッシュレットが表示されます。
- [アプリケーション (Applications)] : 有線デバイスデータでフィルタリングされたアプリケーションに関連するダッシュレットが表示されます。

[ワイヤレス (Wireless)] タブをクリックすると、アクセスポイント、コントローラ、クライアント %、サービスヘルスの詳細が表示されます。[ワイヤレス (Wireless)] の [ヘルスの概要 (Health Summary)] ペインに表示されたサイトまたはデバイスをクリックすると、詳細が表示されます。

[アクセスポイント (Access Point)] : クライアント数、可用性、カバレッジの問題、オンボーディングの問題など、アクセスポイントのヘルスマトリックが表示されます。サイトステータスに影響しない他のメトリックは、一般的なヘルスマトリックでグループ化されます。

[コントローラ (Controller)] : CPU とメモリに関連する問題が表示されます。

[クライアント (%) (Client (%))] : カバレッジ、オンボーディングの問題などがあるクライアントが表示されます。



- (注) ネットワークヘルスダッシュボードのクライアントデータ (カバレッジとオンボーディング) は WLC 8.6 以降のバージョンでサポートされます。

サイト名の横にある設定アイコンをクリックすると、サイトのヘルスルール設定を編集できます。変更されたヘルスルール設定は、[ヘルスルール (Health Rules)] ページで自動的に更新されます。サイトにヘルスルールが割り当てられていない場合、そのサイトに表示されるヘルスルールは親サイトのヘルスルールを表します。

[エグゼクティブ表示 (Executive View)]

- [クライアント (Client)]: クライアントカバレッジ、クライアントのオンボーディングの問題などがあるダッシュレットが表示されます。
- [アクセスポイント (Access Point)]: オンボーディングの問題、カバレッジの問題などのある上位 N の AP に関連するダッシュレットが表示されます。
- [電波品質 (Air Quality)]: 平均電波品質、最も深刻な干渉、干渉数など、電波品質に関連するダッシュレットが表示されます。
- [アプリケーション (Applications)]: 有線デバイスデータでフィルタリングされたアプリケーションに関連するダッシュレットが表示されます。



(注) [詳細 (More)] をクリックすると、特定のダッシュボードが並列起動されます。

[マップビュー (Map view)]: サイト名をクリックすると、そのサイトのマップが拡大され、詳細情報が表示されます。マップビュー設定を変更するには、[ヘルスルールの起動 (Launch Health Rules)] の横の右上にある設定アイコンをクリックします。



(注) デフォルトでは、マップビューは [エグゼクティブ表示 (Executive View)] 内に含まれていません。

関連トピック

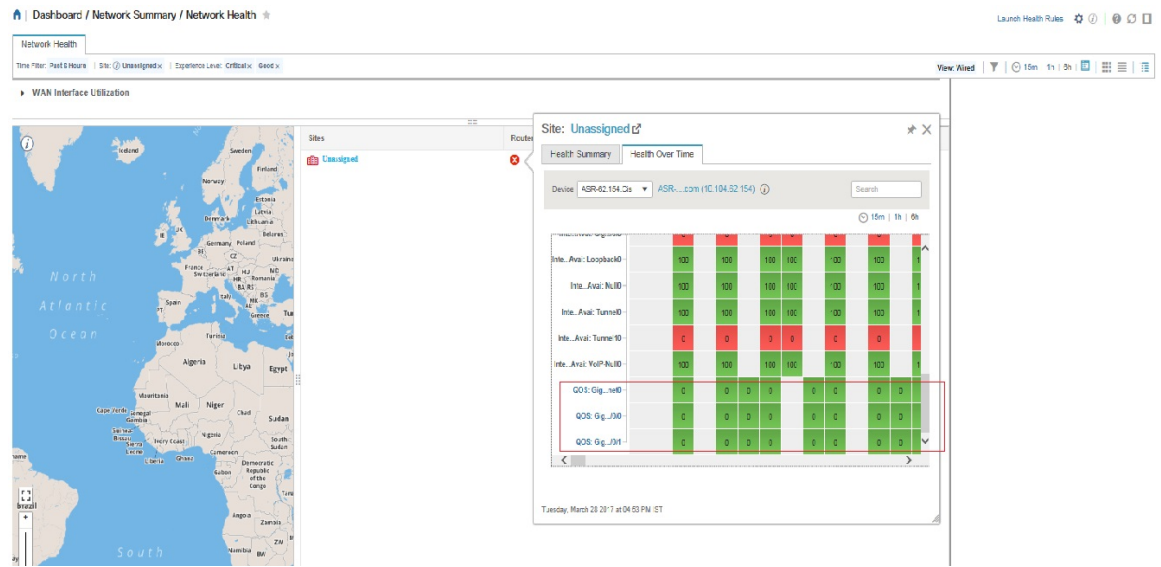
[ヘルスルールの定義 \(19 ページ\)](#)

[ネットワークヘルスマップ機能 \(20 ページ\)](#)

[ロケーショングループの作成](#)

QoS メトリック

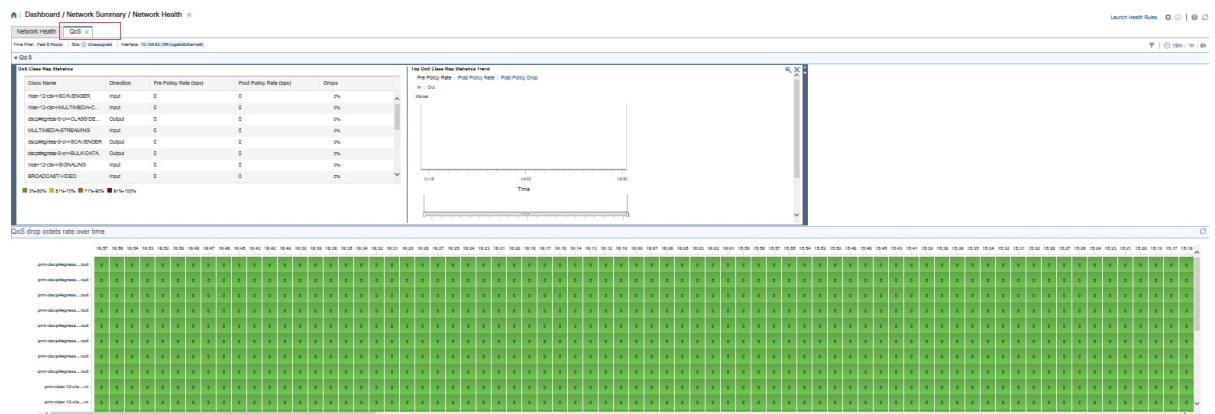
[ネットワークヘルス (Network Health)] ページには、ルータおよびスイッチの QoS メトリックが表示されます。ヒートマップの QoS ハイパーリンク、[ヘルスの概要 (Health Summary)] ビュー、[ヘルスインデックス (Health index)] ビュー、および [テーブル (Table)] ビューをクリックして、[ネットワークヘルス (Network Health)] ページでルータ、スイッチ、およびインターフェイスの [QoS] タブを起動できます。ルータとスイッチのヒートマップには、インターフェイスレベルごとに集約された QoS データと、各インターフェイスのすべての QoS クラスおよびすべての方向の dropOctetsRate の平均値が表示されます。



[ネットワークヘルス (Network Health)] ページの [QoS] タブをクリックすると、選択したインターフェイスのクラスマップごとのデータがより詳細に表示されます。[QoS] タブには、次の詳細が表示されます。

- QoS クラス マップの統計情報
- 上位の QoS クラス マップ統計情報の傾向
- 時系列の QoS ドロップ オクテット率

[QoS] タブには、特定のインターフェイスのクラス マップごとに詳細が表示されます。




トラフィックカンバセーション

ヒートマップのトラフィックハイパーリンクまたは下の図に示すように[会話 (Conversations)] ハイパーリンクをクリックして、[ネットワークヘルス (Network Health)] ページの [会話 (Conversation)] タブを起動できます。

別の仮想ドメインで作業する

仮想ドメインは、デバイスの論理的なグループであり、特定のサイトやデバイスへのアクセスを制御するために使用されます。仮想ドメインは、物理サイト、デバイスタイプ、ユーザコミュニティ、または管理者が選択するあらゆる指定項目に基づいて設定できます。すべてのデバイスはROOT-DOMAINに属します。ROOT-DOMAINはすべての新しい仮想ドメインの親ドメインです。仮想ドメインの詳細については、『*Cisco Prime Infrastructure Administrator Guide*』の「Create Virtual Domains to Control User Access」を参照してください。

複数の仮想ドメインへのアクセスが許可されている場合は、次の手順に従って別のドメインに切り替えることができます。

ステップ1 タイトルバーの右側にある  をクリックします。

ステップ2 [仮想ドメイン：現在のドメイン (Virtual Domain: current-domain)] を選択します。

ステップ3 [仮想ドメイン (Virtual Domain)] ドロップダウンリストで別のドメインを選択します。

Prime Infrastructure によって作業ドメインがただちに変更されます。

ジョブダッシュボードを使用したジョブの管理

適切なユーザアカウント権限が付与されている場合は、ジョブダッシュボードを使用して Prime Infrastructure ジョブを管理できます。ジョブダッシュボードを表示するには、[管理 (Administration)] > [ダッシュボード (Dashboards)] > [ジョブダッシュボード (Job Dashboard)] の順に選択します。ここでは、ジョブが正常に完了したか、部分的に成功したか、または失敗したかを確認できます。

実行中のジョブの数が多すぎると、Prime Infrastructure ではリソースが使用可能になるまで他のジョブがキューに入れられます。これが原因で、スケジュールされているジョブがその通常の開始時刻を超えて遅延されると、そのジョブは実行されません。このジョブは手動で実行する必要があります。

一部のジョブでは承認が必要です。この場合は、Prime Infrastructure から、管理者権限が付与されているユーザに対し、ジョブがスケジュールされており承認が必要であることを通知するメールが送信されます。ジョブの承認後にジョブが実行されます。

次の表に、ジョブダッシュボードに表示されるボタンの説明を示します。

表 6: ジョブダッシュボードのボタン

ボタン	説明
[ジョブの削除 (Delete Job)]	ジョブダッシュボードからジョブを削除します。

ボタン	説明
[ジョブの編集 (Edit Job)]	選択したジョブの設定を編集します。
スケジュールの編集	シリーズのスケジュールを表示し、編集できるようにします（開始時刻、間隔、終了時刻）。
実行 (Run)	選択したジョブの新しいインスタンスを実行します。このボタンは、部分的に成功したジョブまたは失敗したジョブを再実行する場合に使用します。ジョブは、失敗したコンポーネントまたは部分的に成功したコンポーネントに対してのみ実行されます。
[中断 (Abort)]	現在実行中のジョブを停止します。ただしこのジョブは後で再実行できます。すべてのジョブを中断することはできません。これに該当する場合、Prime Infrastructure がそのこのことを示します。
[シリーズをキャンセル (Cancel Series)]	現在実行中のジョブを停止し、このジョブを再実行できないようにします。ジョブがシリーズの一部の場合、今後の実行には影響しません。
[シリーズの一時停止 (Pause Series)]	スケジュールされているジョブシリーズを一時停止します。シリーズを一時停止にすると、([実行 (Run)]を使用して) そのシリーズのインスタンスを実行することはできません。
[シリーズの再開 (Resume Series)]	一時停止になっていたスケジュール済みジョブシリーズを再開します。



(注) [ジョブの削除 (Delete Job)]、[中断 (Abort)]、および[シリーズをキャンセル (Cancel Series)] ボタンは、システム ジョブとポラー ジョブの場合は使用できません。

ジョブの詳細を表示するには、次の手順に従います。

- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [ダッシュボード (Dashboards)] > [ジョブ ダッシュボード (Job Dashboard)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ジョブ (Jobs)] ペインで、基本的な情報 (ジョブタイプ、ステータス、ジョブ期間、次回開始時刻など) を取得するジョブシリーズを選択します。
- ステップ 3** ジョブ間隔を表示するには、ジョブ インスタンスのハイパーリンクをクリックします。
ジョブ ページ上部の [繰り返し (Recurrence)] フィールドに、ジョブの繰り返し頻度が表示されます。
- ステップ 4** 失敗したジョブまたは部分的に成功したジョブに関する詳細を確認するには、ジョブ インスタンスのハイパーリンクをクリックし、結果ページに表示されるエントリを展開します。
これは特に、インベントリ関連のジョブで便利です。たとえば、ユーザが CSV ファイルを使用してデバイスをインポートした場合 (一括インポート)、ジョブは [ジョブ (Jobs)] サイドバー メニューの [ユーザ

ジョブ (User Jobs)] > [デバイスの一括インポート (Device Bulk Import)] に表示されます。ジョブの詳細には、正常に追加されたデバイスと、追加されなかったデバイスのリストが表示されます。


例

失敗したソフトウェア イメージ インポート ジョブのトラブルシューティングを行うには、次の手順に従います。

1. [ジョブ (Jobs)] サイドバー メニューから、[ユーザ ジョブ (User Jobs)] > [ソフトウェア イメージのインポート (Software Image Import)] を選択します。
2. テーブルにある失敗したジョブを見つけ、そのハイパーリンクをクリックします。
3. ジョブの詳細がまだ展開されていない場合には展開し、このジョブに関連付けられているデバイスのリストと、各デバイスのイメージインポートのステータスを表示します。
4. 特定デバイスのインポートの詳細情報を表示するには、[ステータス (Status)] 列でそのデバイスの [i] (情報) アイコンをクリックします。こうすると、[イメージ管理ジョブの結果 (Image Management Job Results)] ポップアップ ウィンドウが開きます。
5. 各ステップとステータスを確認します。たとえば、[プロトコル SFTP を使用したイメージの収集 (Collecting image with Protocol: SFTP)] 列に、そのデバイスで SFTP がサポートされていないことが示されることがあります。

Cisco Prime Infrastructure 機能の拡張

アドバンス ユーザは、Cisco Prime Infrastructure REST API を使用して Cisco Prime Infrastructure 機能を拡張し、管理オプションを管理できます。

このツールに関する情報を入手するには、Prime Infrastructure Web GUI の右上にある  をクリックし、[ヘルプ (Help)] > [REST API] を選択します。『[Cisco Prime Infrastructure API Reference Guide](#)』は Cisco.com から直接ダウンロードすることもできます。

最新のインベントリに存在をチェック マニュアル

参照してください、 [シスコ総理インフラストラクチャドキュメントの概要](#) に付属しているマニュアルのすべてへのリンクとについて Prime Infrastructure 。



- (注) マニュアルの発行後に、マニュアルをアップデートすることがあります。マニュアルのアップデートについては、Cisco.com で確認してください。